

上毛野の古代仏教

関口功一著



みやま文庫

はしがき

日本の古代仏教は、長期間にわたって、同時代の歴代中国王朝から韓半島諸国を経由して渡来した、中国仏教をもとに生み出された、日本独自の宗教である。各地への定着にも長期間を要し、各地点によって独自の変容もあつた可能性がある。その際には、儒教や道教やその他の在来信仰などが複雑に絡み合っていたらうから、話しはなかなか複雑である。

右の古代仏教について、対象地域を「上毛野々上野国」に限って考えてみたのが本書である。現状でさえ、取り上げるべき史・資料がたくさんありすぎて、取捨選択に迷つた結果と言い換えてもよい。豊かな仏教史研究の成果の、ほんの僅かな部分をつまみ食ひしたという感じである。

なお詳しい内容や、より正確な事実関係が知りたいという方のために、各記述の根拠となつたような参考文献で、現在入手・閲覧が可能なものを、巻末にやや詳しく掲げておいた。それでも、膨大な数が刊行されている発掘調査報告書等の成果に関しては、ほとんど取り上げることができていないので、関連機関などに問い合わせされることをお勧めする。また、博物館などに展示されている関連出土遺物等を実見すると、現在の仏教寺院との大きな違いを体験できるだろう。

目次

はしがき

一、古代仏教は、なぜ上毛野でも受け容れられたか？…………… 3

古墳から寺院へ／「国家仏教」の担い手／「地域仏教」の意味

二、古代仏教の「伝来」過程…………… 7

仏教の伝来／日本への伝来／国内での伝播経路／「仏・法・僧」

東国「地域仏教」の可能性／「地域仏教」の成長

三、「道忠」教団の活動…………… 33

「教団」化のはじまり／鑑真の渡来／道忠をめぐる人びと／「地域仏教」教団

信仰の諸相

四、「山上多重塔」建立の背景……………	54
もうひとつの石碑／「山上多重塔」の銘文／道忠と勝道／徳一の存在と最澄 法相宗の普及と衰退	
五、「写経」事業の一般化……………	75
写経の実施／上毛野真人の経歴／職務内容の変遷／交流のあった官人 交流のあった僧侶／正倉院文書の世界	
六、古代寺院の動向……………	94
白鳳期以前の寺院／「大安寺資財帳」に見る古代寺院／定額寺の実像 寺院遺跡の様相／「氏人ノ申請ニ依リ……………」	
七、国分寺政策の推移……………	124
史跡上野国分寺跡の特色／国分寺政策の推移／国分尼寺の実態 上野国分尼寺跡／上野国分寺と「上野国交替実録帳」／国学と国分寺	

八、大寺院「食封」の設定と意味……………	152
全国的分布の動向／法隆寺食封／東大寺封戸／古代寺院と封戸 地域支配の持続性	
九、「地域仏教」の変容……………	171
『三宝絵詞』の世界／上野国司／有勢僧侶／俗人有勢者	
十、山岳寺院の諸様相……………	183
上毛三山と山岳寺院／古代「地域仏教」の終焉	
むすびにかえて……………	191
参考・引用文献……………	192
著者略歴……………	203

